

パオちゃん's EYE

2018年3月1日発行 No.12

倉敷みらい公園で植物観察

倉敷市立自然史博物館は、敷地内に植物園や生態園などの生きた植物を観察できる施設がないため、歩いていける範囲で植物観察をしようと思うと、近くの新溪園（中央1丁目）や鶴形山（本町・阿知2丁目・鶴形2丁目）、向山（船倉町・向山・羽島・二日市）、倉敷みらい公園（寿町）などを使うことになります。

倉敷みらい公園は2011年11月23日に開園した都市公園で、倉敷駅に直結する交通至便な場所にあります。倉敷市立自然史博物館と同友の会は、開園翌年の2012年から自然観察会を実施し、春（4月）、夏（8月）、秋（11月）、冬（2月）の年4回、おもに淡水魚・貝、野鳥、昆虫、植物を継続観察しています。8月には、セミの抜け殻調査もあわせて実施し、セミの種類と雌雄、個体数を記録しています。

植物は毎回共通するテーマとして、季節ごとに咲いている花（春：カラスノエンドウ類、スミレ類、ハコベ類など、夏：カタバミ類、ニシキソウ類など、秋：センダングサ類、タデ科など、冬：スイセン、ソシンロウバイ、サザンカ、マンサク類など）を観察しています。また、公園内に1株だけ生えているシロバナタンポポの生存を確認したり、紅葉する樹木（カキノキ、イチョウ、メタセコイア、ラクウショウ、イロハモミジなど）や、たね・実の広がるしかけ（風散布、動物散布、重力散布など）、植物の冬越しの姿（冬芽、ロゼット）を観察したりしています。雨の降っているときには葉が水をはじく様子や雨水が樹幹を伝わる様子を、倉敷では珍しく積雪の日には雪の重みに耐える樹木（クスノキやイロハモミジの枝は折れやすい）を観察したこともあります。

2018年2月10日の観察会のときには、定点観察をしていたヒマラヤスギが枯れて切り株だけになっていました（写真）。根元周囲を測り、年輪を数えた結果、この木は直径が年平均1.2cmずつ太っていたことがわかりました。

身構えずに気軽にに行ける公園ですが、訪れるたびにいろいろな発見があって面白いところですよ。次回の観察会は2018年4月14日、よろしければごいっしょに。

狩山俊悟(植物担当)



パオちゃんズアイに関するお問い合わせは

倉敷市立自然史博物館

〒710-0046 岡山県倉敷市中央 2-6-1

電話:(086)425-6037 FAX:(086)425-6038

E-mail:musnat@city.kurashiki.okayama.jp

博物館ホームページには
いろんな情報がいっぱい♪
「倉敷市立自然史博物館」で
検索してみよう！ パオより

